

【審議会から要望のあった資料】

印西市学校適正配置等に関する市民アンケート調査における「その他」の回答内容について

問6 小学生の通学方法で最も望ましいもの

- ・学校による。
- ・親とその子どもがいいなら、それでいい。
- ・指定の場所を決めて、バスを見かけたら手を上げるようにする。
- ・住んでいる地区によって、望ましい方法は違う。
- ・近い子どもは徒歩で、遠い子どもはスクールバス。
- ・近い場合は徒歩だが、遠い場合はスクールバス。
- ・必要に応じて、自転車やスクールバスも併用。

問7 問6の方法が最も望ましいと思う理由

- ・選んだ学校次第。
- ・諸々の安全のため(道中、不審者、悪天候、ケガの場合)。
- ・犯罪や事故等から守る。
- ・子どもの安全を考えた時に、最もリスクが少ないと思われるから。
- ・通学途中における危険度を考えた時。
- ・歩く事が、人間の本来の姿だから。
- ・防犯のためにも、短時間で集団下校が望ましいと考えているから。
- ・自然を感じ、友達と共に歩むことは、心身の健康にいい。
- ・徒歩通学が、あるべき姿と考えるから。
- ・帰り道での友達とのコミュニケーションや感受性が養われると思うため。
- ・子どもはスクールバスを利用していますが、本当は徒歩が良いと思う。今スクールバスを利用している理由は、イノシシが出る地域であると学校から言われているため。
- ・友人達と一緒に登下校できる。
- ・集団生活、協調性の学習。
- ・近くても通学路には危険な場所があります。それを少なくするためにバスで送るのが一番です。
- ・遠くなければ、徒歩が安全。
- ・伝統的に徒歩だったから。今後の治安次第で、スクールバスを取り入れるのはありだと思う。
- ・低学年の場合、熱中症などの危険があるため、歩けるくらいの短時間で辿り着ける方がいい。
- ・小学校は、徒歩で通える距離が望ましい。
- ・通学による学びがあるから。
- ・友達と帰ったりする時間は、とても楽しかったからです。
- ・住んでいる地区によって、望ましい方法は違う。
- ・特に夏は、重いランドセルを背負って、長い距離を歩くのは危険だから。熱中症になる。
- ・通学途中の誘い合いや交流も学習の1つだと思う。
- ・45分以内なら徒歩が可能だと思う。
- ・危険回避のため。
- ・友達との交流の時間でもあり、交通ルールを覚える機会でもあるため。
- ・徒歩が望ましいが、学校の統合を進めるにはスクールバスが望ましい。
- ・自転車は転んだりすると危険だから。

- 防犯の観点から、自宅から遠いと心配。
- 集団下校をしてもらいたい。個人での登下校よりも、複数人での通学が可能だと、親としても安心出来る。
- 小学生に自転車通学は危ないように思える。車との事故も増えそう。
- 小学生は、徒歩が望ましいと思う。
- 合理的であると思われるから。
- 自転車は危ない。電車やバスは想定外。スクールバスは不要。
- 交通事故の確率が下がるから。
- 2, 3, 4 は、徒歩より事故のリスクが高いと思うから。
- 不審者が出ると聞くので、バスだと安全。
- 子どもの人数が減り、一人での登下校などは心配。
- 統廃合によって、通学距離に差が出るから。
- 会話をしながらの時間、近所の地理を覚える。
- 歩くしかなかったからです。
- 不審者や交通事故の心配が少ないから。
- 登下校時に、交通事故や犯罪にあうのを防ぐため。
- 外を歩くことで、季節毎の自然の移ろいを感じて欲しい。
- 徒歩での通学が可能であるなら、金銭的な問題が軽減するから。
- 交通ルールを学ぶ。
- 仲良く付き合うことを覚えるため。
- 徒歩通学をすることで体力もつくし、交通ルールを学ぶことが出来るから。
- 子どもの安全を考慮して。
- 不審者や熱中症、自動車事故等を考えるとバスが一番。
- 意味不明。
- 通学路が安全な上で、徒歩が望ましい。
- 地域の土地勘や道のりの間で、安全な場所や危険な場所を習慣的に学ぶことが出来る。
- 徒歩圏内ならば、それが普通。
- 夏場で暑さ、通学の安全面を考えると、アメリカのスクールバス制度を参考にしてほしい。
- 通学距離が近ければ徒歩、遠ければスクールバス。
- 海外では、子どもが一人で通学など危なくて、あり得ない。

問9 中学生の通学方法で最も望ましいもの

- 学校による。
- 子どもの安全を考えた時に、最もリスクが少ないと思われるから。
- 親と本人がいいのであればいい。
- 事情に合わせればいい。
- 通学手段として有効と考えるから。
- 住む場所によります。
- 住んでいる地区によって、望ましい方法は違う。
- 基本は徒歩で、遠い子どもはスクールバス。
- 徒歩と自転車両方。
- 友達と歩きながら帰ると、コミュニケーションがとれるから。
- 必要なら自転車。

問 10 問 9 の方法が最も望ましいと思う理由

- 部活動で帰りが遅くなると、危険だから。
- 部活動等で帰る時間がそれぞれ。
- 選んだ学校次第。
- 学習や部活道具など手荷物が多いので、少しでも負担が減ればと思います。
- 時間を有効的に使えるため。
- 学業や部活で荷物が多くなるのと、部活で帰りが遅くなるので、歩きより自転車などが望ましいと思う。
- 部活等で遅くなる場合もある。
- 下校が遅くなるので、少しでも早く帰宅して、家庭学習や習い事、友達と遊ぶ時間をとりたいから。
- 心配なら自家用車で送り迎え、引っ越しすればいい。
- 中学にあがると、部活や勉強が大変になるから、少しでも時間がとれるように。
- 歩く事が人間の本来の姿だから。
- 私立か公立で答えが違いますが。
- 部活動が始まり、小学校よりも下校時間が遅くなるためと安全面の理由で。
- 選択する学校による。交通マナーや体力的に、中学生の通学方法は、各家庭によると思う。
- 私も中学生の時は、徒歩通学でしたので。
- 徒歩通学が、本来あるべき姿だと思います。
- 授業の荷物、部活の荷物がたくさんあり、駐輪場は余裕があるなら、距離関係なく、自転車がいい。
- 公共交通機関だと、無駄に行動範囲が広くなりそうなので。
- 教科書などの荷物が重すぎる。家で勉強するには、教科書を持ち帰ることが前提。
- 感性をのばす。四季折々の自然。
- 近く遠くは関係ないです。出来たらスクールバスで送るのが一番です。
- 遠くなければ徒歩が安全。
- 距離によって、自転車でいいと思います。
- 自転車でもいいですが、通学路をきちんと知ることが大切だと思うから。
- ある程度自立し、安全管理を行えるため、自転車を採用する。
- 自転車は、時間帯や天候によって、危険があるから。
- 危険の予測を学ぶため。
- もし自転車なら、それを受け入れる設備が必要だからです。
- 住んでいる地区によって、望ましい方法は違う。
- 45分以上なら自転車。中学生なら自転車でも大丈夫だと思う。
- 一部の生徒にだけ自転車を許可するなら、全員に許可を出した方がいいと思ったため。
- 通学時間が短縮出来るから。
- 交通事故に限らず、世の中の危険を感じるため。近隣校との統合などにより、学校が遠くなるため。
- 子どもたちの自転車の運転マナーにも、不安がある。
- 自立のため、公共マナーを学ぶため。
- 小学校の関係が理由。
- 防犯の観点から、自宅から遠いと心配。
- 部活道具など、徒歩では重いと思うので。

- 多少距離が遠くなっても、小学校より色々な地域から集まるのは良いと思う。中学の通学で自転車にも慣れて欲しい。
- 小学生と同じく、小中学生は徒歩が望ましいと思う。
- 部活動のため。
- 合理的。
- 自転車のマナーを学ぶため。
- 片道 45 分だと徒歩 1 時間半。自転車は仕方ないが、徒歩が基本。
- 荷物が増えることと、夜道でも自転車のライトがあるから。
- 中学生になると、通学時にかなりの荷物がある。時短通学。特に下校時は、早い帰宅の方が家庭学習や塾へ通いやすい。自宅から学校が近い場合は徒歩が望ましい。
- 遠くから自転車で急な坂と森で囲まれたところを通っていたのを見かけて、大変だと思った。
- 部活などの行動範囲も広くなることから、自分で出来る交通手段として。
- 車と並走すると危ない。
- 荷物が多いから。
- 住民との距離感。
- 部活動等で帰りが遅くなるため。
- 部活等で荷物が多い。また、自転車の正しい乗り方を学ぶ機会になるため。
- 部活など個別の活動があるから。
- 車両使用における責任等を学ぶだけの余裕が生まれるため。
- 帰宅時間が遅い時は、暗い道を歩くのは危険だから。
- 通学時間の差を少なくするため。
- 雨の日はちょっと大変だけど、ふざけたり話したりして、良い思い出が出来るから。
- 徒歩で通うことができる距離に、学校を配置してほしい。
- 部活等で各々通学時間が異なるため。
- 子どもの安全を第一に考えた方がいいため。
- 意味不明。
- 同じく通学路が安全な上で。
- 部活動、進路のための学校以外のエリアへ移動する機会を考えると、学校からの通学方法も考える時代。徒歩よりも車の事故はあると思うが、下校時間、部活のために早朝から徒歩移動は、周囲を見ていると危険だと感じます。徒歩通学を見ていると色々感じるので、自転車置き場の確保も大変でしょうが、自由でいいと考える。
- 消去法です。事故やトラブルの危険性がなく、体力の消耗や遠距離の場合のデメリット等はある一方で、選択肢の中でより安全でかつ時間的な面でもデメリットが少ないと考えます。
- 部活の荷物が多いから。
- 交通ルールを学べるから。
- 通学距離が近ければ徒歩、遠ければスクールバス。
- 海外では、子どもが一人で通学など危なくてあり得ない。
- 地域によって、相応しい通学方法があると思います。

問 11 小規模校について、印西市が今後どのようにすることが望ましいと思うか

- 子どもにとって何がいいのか、経験がないから、わからない。
- 学校の必要性を考える。田舎の数人の人のために作る学校は必要か。別で対策は可能だと思う。
- ナンセンス。子どもの将来の輝きを考えて、施策を考えるべき。行政中心ではなく、子ども中心で。
- 学校の構成よりも教育の内容が大切であり、どの学校でも、等しく教育を受ける権利が子どもにはあるので、教育の不平等がないよう希望する。
- 印西市として、義務教育学校特区を新設する。
- 地区の立地条件を考慮して、存続または統合を検討する。
- 少し遠くの学校まで通えるように、幼稚園のようにスクールバスを出す。
- 居住者を増やす計画の実行。
- 小規模校になり、学習内容が疎かになるのも困るし、学校が遠くなるのも困ります。
- 廃校になっても仕方ない。
- スクールバスの運行により、従来の近隣に存続可能な小中学校を指定して、通学させる。新設校の設置には、莫大な費用がかかるので難しい。

問 12 問 11 で「存続」と答えた理由

- 無理に学校をつくる費用が無駄。
- 将来、子どもがその地域に増えたときに、その子どもたちが通う学校がなくなるから。
- 子どもが通いやすい状況をつくる。
- 将来、人口増加の可能性を考慮。
- 通学区域を弾力化して、従来の通学区域の学校では、通学困難の児童生徒の受け入れ先にもできるから。積極的な意味で、違う地域の文化、空気に触れたい子どもを受け入れることは、いいことだから。
- 大規模校の増築が無駄だから。
- 遠くの学校へ行くには時間がかかる(統合などで近くの学校が閉校になった場合)。
- せっかくある学校なのだから、通学区域に関係なく来てもらい、少人数ならではの個性ある学校があってもいい。
- 何か有効活用を考えていただきたい。
- 憲法では、全ての国民は等しく教育を受ける権利が保障されており、少子化でも人数が減ったからといって、統廃合するのはおかしい。
- 子ども中心の考え方が重要。行政の押しつけはだめ。
- 通学地域が変わってしまい、通いづらくなってしまいう児童がいるから。
- 少人数の特性を活かす教育により、より高い学力や未来への希望に繋げる。
- 大規模校には通いづらい生徒の選択肢の多様化のため。
- 近くに避難場所があった方が安心。
- 人との交流が苦手だったりなど、大規模校に通うことが困難な子どもたちが通える学校があればいいと思う。
- IT を活用して、他校と授業を繋げたり、人的資源はそのままにして、教育の質は確保出来ると思うから。

- 通学区域に関係なく通えるのは、子どもがいじめ等に巻き込まれた時に、転校しやすいメリットがある。
- 自分だったら、途中で隣接校と統合して、環境が変わるのは嫌なので。
- 私はベビーブームで育ったので、あまり目が行き届かない方がいい。細かい所まで注意されるより、大雑把にアバウトに育てるのも、1つの方法だと思う。
- 遠くまで通学するのは大変だが、希望してそこに通うなら、それは本人が望むことなのではないかと考える。

問 13 問 11 で「統合」と答えた理由

- 小学校から中学校の情報交換が可能になり、学習面、生活面でのフォローが、柔軟に対応できる。
- 子どもたちの世界が広がるから。
- 設問がプリミティブすぎる。これの回答が何の役に立つのか。
- 近隣の小中学校でも、家から通学出来る距離なら、統合でもいい。通えるのなら、近くの学校で統合。
- 小中学校という分け方が必要なのか。
- 同学年の近隣の仲間が出来て、地域に親しみを持つ。
- 人数が少ない場合、イジメがおきた時、他の友達と遊ぶなどの選択が出来ずに、解決が困難だと考えるため。
- 一定の継続性の確保が可能。安定した教育環境が、実現可能。
- 小中の児童生徒や教員同士が関わり合うことは、プラスな点が多いと考えるから。

問 14 学校を統合する場合に特に配慮すべき点

- スクールバス等による、通学時間の適正化。
- 教育の視点の欠如。設問側が説得すべき事項を問うている。
- 段階的に統廃合して、最終的に学校特区を作る。
- 生徒個々の能力の見極め。
- 入学のタイミングで、統合する学校に通う。高学年などは、特に途中で大きく環境を変えない方がいいのではないかと。
- 空き施設と公共施設の活用。
- 遠隔地の児童と近隣の児童の通学時間の差の解消。
- 距離がある場合における行事時間、交通手段、駐車場の有無、PTA の参加などの親への配慮。
- 年配者の意見ばかり聞かないでいただきたい。

問 15 大規模校について、印西市が今後どのようにすることが望ましいと思うか

- 大規模学校の周辺も結局大規模に近いので、新設またはスクールバスで行けるようにする。
- 学校を増やす。
- 通学時間が短くなるのであれば。遠くなる子が増えるのであれば。
- 近隣の学校を含めて、複数の中から選べる学区をつくる。
- 個人でも自分に合った学校へ。越境入学もありだと思ふ。

- 通学区域を変更して、在学の生徒が転校を強いられるのは反対。
- 増改築を行わずに、入学前の子どもを対象に通学区域を変更する。
- 小中学校の統合、施設整備、教員の適性(質)配置。
- 現状の学校数で対応。ただし、転校は望まない。
- 増改築は反対。常に生徒の通学を考えること。
- 新設校を建てる・将来、地域交流等の施設としても使用可能なもの。
- 通学区域変更で、通学時間が長い児童には、スクールバスで対応。
- 大人が決めることではない。アンケートをとるなどして、子どもに決めさせてください。
- スクールバスで小規模校へ行く(希望者)。
- 参考資料の4ページ「大規模校の対応」に記載の通りだと思います。
- 学校を設立するのに、先を見据えて、土地の広い場所に、広い学区域で作ってほしい。
- 学区を柔軟に設定し、通学可能な学校の児童・生徒数を公開して、選択する。
- これを設問で聞いて、回答をどう活用するのか。
- 転校ではなく、未入学の児童・生徒を対象に、別区域の学校へ入学させる。
- 小倉台小は、将来老人ホームになるため、木刈小とは建て方が違うと聞いています。老人ホームなら有効活用出来るので、増築しても無駄にならない。
- 準適正規模校周辺の居住環境を見直し、各校に分散できないものか。
- 牧の原地区に中学校を設立してほしい。
- 学区が違って、特性や教育力があれば、スクールバスを利用して、行ってみたいと思わせる学校づくりが大切である。
- 現実的には、両方で対応すべきだと思います。
- 大規模校になるのは構わないが、先生の目が行き届かなくなることが一番悪いので、それがないようにする。
- 利用の少ない施設を学校として利用する。
- 既存生徒の転校はせず、ある年度の新1年生から新たな学区の学校へ入学する。
- 統廃合の中核校として位置付ける。
- 増改築を行うと共に、周辺の公共施設を積極的に活用する。誘致する企業にも協力を求める。
- 新たな学校の開校。草深小学校を復活させる。
- 既存の生徒の転校はかわいそうなので、新入生からにする。その場合、中学校は選択できるような措置をとる。
- 学校の新設。
- 新入生から通学区域の変更の対象者とする。在校生の変更は対象外。
- 転校ではなく、入学のタイミングで、教室が不足しないよう、学区を分けていく。
- 増改築はしないで、空き施設を活用することは賛成だが、児童生徒にすぐに転校してもらうのはどうなのかと思う。
- 小中高一貫教育、私立も受け入れるべきだと思う。
- 特に住宅が増えている草深等は、旧草深小学校を整備して、通学が可能であれば近隣のお子さまを通わせてあげたい。
- 予算があれば、新しく建設する。
- 将来、学生数が減った時、建物はどうするのか、どこで線引きをするのか、問題があるので決定は出来ません。
- 転校ではなく、中学入学のタイミングで、通学区域を変更する。
- 次年度からの入学を変更区域で対応する。
- 転校ではなく、新1年生から通学区域を変更する。

- ・小規模校への転校を促す。区域を見直すのも、1つの手段ですが、反対が多くなると予想されます。どちらにしても、十分な説明会は必要。希望する人を募集し、その際にはスクールバス、期間限定の給食費無料、スポーツ施設との連携による部活動の充実など転校のメリットを出す必要があるのではないか。
- ・校庭を小さくするような増築ではなく、新たな校舎の建築を考えた方がいいと思う。
- ・住宅エリアにより、子ども達の人数増加、少なくなってしまったエリアを区分する。
- ・通学が遠くなる区域に新設する。
- ・学校施設の増改築が難しい場合、例えば、電機大などの跡地を買い取って、小学校や中学校を作るのがいいと思います。
- ・両方。
- ・通学区域を変更した場合、新入生から学校を変更し、在校生は卒業までその学校に通学する。転校には同意出来ない。

問 17 過去1年間に市立小・中学校に行った理由

- ・学校の先生に会いに行きました。
- ・ソフトテニス中学生大会開催の打ち合わせ。
- ・児童館が同じ敷地にあったから。
- ・子どもの様子を伝えたり、連絡事項あり。
- ・孫の送迎。
- ・忘れ物を取りに行く。
- ・通学路の花植で交流。
- ・読み聞かせボランティア。
- ・病気で入院のため、選挙も病院で済ませたため。
- ・孫の迎え。
- ・団地の通常総会。
- ・教諭。
- ・学習支援の仕事をしているため、毎日出勤しています。
- ・孫のスポーツ活動見学。
- ・町内会として、情報交換と祭りの際の協力の相談。
- ・孫のお迎え。
- ・忘れ物を届けるため。
- ・仕事で子どもの送迎。
- ・夜、体育館を借りて、卓球やソフトテニスをやっていた。
- ・学童の仕事をしているため。

問 19 コロナ禍前に市立小・中学校に行った理由

- ・学校の先生に会いに行きました。
- ・ソフトテニス中学生大会の事前打ち合わせ。
- ・校庭で孫と遊ぶ。
- ・新一年生のため。
- ・教育実習。
- ・孫の子守り、滑り台やブランコ、鉄棒の相手。

- 通学路の花植で交流。
- ボランティアで、認知症サポーター養成講座で授業のお手伝い。
- 教諭。
- 牛乳の配達。
- 自治会の総会。
- 避難訓練等で1年間に1回程度。
- 小学校で、講師として働いていました。
- 孫のスポーツ活動見学。
- マンションの総会開催時に、小学校の体育館を利用していたため、訪問の小学校の桜並木を家族で見に行きます。
- 町内会として、情報交換と祭りの際の協力の相談。
- 孫のお迎え。
- 墓参りのついで。
- 仕事で子どもの送迎。
- 子どもが小中ではないため。
- 小学校未就学のため。
- マンションの組合による総会。

問20 市立小・中学校が地域で担ってきた役割の中で特に重要だと考えるもの

- 勉強以外の学びの場、人間関係等。
- 関係者以外立ち入り禁止で、シャットアウトされていて、以前、選挙、防災訓練で数回行った程度。
- 学び直しをしたい人のための学校があるといい。なぜかという、英語など再度学び直したいと考えているため。
- 地域の夏祭りや運動場をフルに使っていない。